

イチゴいっぱい採ったよ!



手のひらからイチゴを摘む園児たち

5月13日、有都こども園の5歳児36人が、晴れ渡った青空の下、内里の畑でイチゴ摘みを体験しました。

同園では、園児たちに食べ物大切にすることをもちょうと、イチゴ摘みや田植えなどの農業体験を実施しています。

イチゴ畑に到着して、先生の合図が出ると、園児たちは赤く実ったイチゴを探して、畑中を行ったり来たり。

緑の葉っぱの下に隠れたイチゴを見つけると、低くかがんで、丁寧に摘み、「先生、見て見て」と、うれしそうに報告していました。

カゴいっぱい採れたイチゴは、みんなで仲良く園に持って帰り、後日、ジャムにしたい予定です。

イチゴを摘み終えた園児たちは「手からイチゴのにおいがする」「イチゴいっぱい採れた」と、満面の笑みを浮かべていました。



手のひらからイチゴのにおい

水難事故に気を付けて!

市消防本部が救助訓練

水難事故が起りやすくなる季節を前に、5月13日～16日の4日間、宇治川御幸橋付近で市消防本部が水難救助訓練を行いました。

同訓練は、水難現場における救助活動や救命索発射銃操作技術等の向上を目的としています。

救助訓練では、水難者に見立てた背丈170センチ、重さ60キロの人工人形を川上から流し、救命ボートに乗った3人の隊員が救助に向かいます。隊員は人形に近づくと、ネットで包み込み、迅速に救助していました。

また訓練の最後には、遠方の水難者を救助するための救命浮輪を発射する空気式救命索発射銃の発射方法等を確認。隊員たちは本番を想定し、真剣に訓練に取り組んでいました。

西田消防署長は「川は見ただ目より流れが速く、水深も深く危険なので、遊泳などは絶対にしないでください」と注意を促していました。

西田消防署長は「川は見ただ目より流れが速く、水深も深く危険なので、遊泳などは絶対にしないでください」と注意を促していました。



水難者に見立てた人形を救助する隊員たち

まちの話題

「このページでは、市民の皆さんの活躍やまちの話題などを紹介しています。身近な話題や、広報紙についての意見を、秘書広報課までお寄せください。」

笑いを交えながら講演する池田さん



「がんばらない生き方」のすすめ

池田清彦さん講演

5月11日、生涯学習センター1で、生涯学習開講式記念講演会が開催され、会場は市民ら約250人で埋め尽くされました。

同講演会では、フジテレビ系列で放送中の「ホンマでっか!?TV」でもおなじみの池田清彦さん(生物学者・理学博士・早稲田大学教授)を招き、「がんばらない生き方、楽しく生きるのに準備はいいから」をテーマに講演が行われました。

池田さんは「がんばらない生き方とか言っても、かみさんに、あなたが一番頑張ってるじゃないの、って言われてますけれども」と笑いを誘いながら、自身の学生時代や病気にまつわるエピソードを紹介。

病気になった時、治そうと頑張ることがストレスとなって状態が悪くなることもあるので、「頑張らないことが一番良い」と説明。

また、人は元来、寝てもらうことが一番うれしい生物である。人生を楽しく生きるために、互いに分かり合える人たちと感謝し合ったり、褒め合ったりしてほしいと話していました。

大きな絵本をプレゼント

南地区民生児童委員協議会、第四幼稚園に

5月9日、八幡南地区民生児童委員協議会が八幡第四幼稚園の園児たちに、大きな絵本をプレゼントしました。

同協議会は、園児たちとふれあい、喜んでもらえる機会を持ちたいという思いから、毎年、同園の夏祭りやクリスマス会に参加しています。

今回はこどもの日にちなんで、園児たちが大好きで、みんなで一緒に楽しめる大型絵本を贈ることにしました。

同協議会の人から絵本を手渡されると、園児たちは大喜び。

プレゼントされた絵本は「はじめてのおつかい」。5歳の女の子が、お母さんに頼まれて初めてお使いに行くという物語です。

同協議会のメンバーによる絵本の読み聞かせが始まると、園児たちは同じ年くらいの主人公の女の子に自分を重ね合わせているのか、熱心に聞き入っていました。

最後は、園児たちから同協議会の人たちに、大きな声で「ありがとうございます」と、お礼の言葉を贈りました。



絵本のお話に聞き入る園児たち